

宇陀市有機農業推進協議会（奈良県）

担い手の育成と地域有機質資源のリサイクル

①取り組みの体制

奈良県、宇陀市、農業協同組合及び宇陀市有機農業推進協議会と連携し、有機農業の担い手育成と地域有機質資源のリサイクルを推進。

②取り組みの主な内容

・担い手の育成

協議会員自らが、全国からの研修生を受入れ、地元での有機農業参加者を育成、増加。

・地域内での有機質資源の循環

宇陀市シルバー人材センターとの連携により、植木の剪定枝等、地域から出る有機物を利用して良質な堆肥を製造。循環型社会形成の発信。

③生産概要（H22年12月末）

○ 農業生産物の内訳

野菜（ホウレンソウ・コマツナ・ミズナ等）

9.3ha(対前年比+0.5ha)

うち有機JAS栽培7.3ha

果樹（ブルーベリー） 0.2ha

うち有機JAS栽培0.2ha

○ 協議会の農業者数

現在 15人(対前年比+2人) 目標 20人

うち有機JAS農業者10名(対前年比+1人)

○ 協議会の売上

現在 172,000千円(対前年比4,900千円増)

うち有機JAS分160,000千円(対前年比4,000千円増)

目標 210,000千円

○ 農産物の主な取引先…大手スーパー、百貨店等

④写真、絵、グラフ等プレゼン資料



有機農業推進モデルタウン
(駅前モニュメントで有機の啓発)

有機堆肥製造
(循環型社会形成の発信)



⑤協議会代表の一言

奈良県内でも有機JAS認証者が多い宇陀市。

宇陀市は、気候にも恵まれ、昼夜の温度差が大きい高原地帯でホウレンソウ・コマツナ・ミズナなど軟弱野菜の産地。

現在、有機農産物による、宇陀市の安全・安心野菜のブランド商品化を進めるとともに、「食育&食りと安全・安心農産物の循環型社会形成」を模索中。

※食リ(食品リサイクル)

⑥連絡先：宇陀市役所農林課 (0745-82-3679)

e-mail : nourin@city.udal.jp



全国の有機農業の匠から技術を学ぶ

①取り組みの体制

環境保全に力を入れている那賀地方の生産者団体が中心となり、農協、NPO法人、市、県からなる協議会を設立。

技術研修会や消費者交流会により有機農業の環を
広げ、地域を活性化していく。

②取り組みの主な内容

・新規就農者及び新規参入者への支援

先輩農家への研修制度による技術の習得

新規参入者を対象とした研修会による知識の習得

・地産地消で消費者と生産者をつなぐ

収穫体験、学校給食への供給など、消費者との交流

・匠の技を学ぶ

全国の有機農業の匠から技術を学ぶ研修会を実施

・有機農産物の生産・販売実証

加工品開発、新規品目の開拓

③生産概要（H22年12月末）

○ 農業生産物の内訳

有機栽培水稻 246a(対前期比+163a)

うちJAS栽培 172a(対前期比+89a)

有機野菜 550a(対前期比+240a)

うちJAS栽培 417a(対前期比+50a)

有機果樹 889a(対前期比+82a)

うちJAS栽培 889a(対前期比+82a)

○ 有機農業者数

37人(対前期比+9人)

うち有機JAS認定農家27人(対前期対比+4人)

○ 協議会の売上

64,991千円(対前期比△17,777千円)

うち有機JAS分63,961千円(対前期比△3,512千円)

○ 農産物の主な取引先

有機農産物取り扱い専門業者、農協、宅配、...

④写真、絵、グラフ等プレゼン資料



有機タマネギ技術実証ほ



有機水稲栽培研修会

那賀地方
有機農業推進協議会
の取り組み



加工品開発



消費者交流

⑤協議会代表の一言

多くの方々が昨年度の私達の活動をきっかけに、有機農業にチャレンジされています！

収穫体験に参加された消費者は「今まで食べたことがないほどおいしい！！」と感激されます！

私達の活動から地域が活性化するよう、今後も取り組んでいきます！

⑥連絡先：〒649-6602和歌山県紀の川市平野927番地

TEL 0736-75-5036 FAX 0736-75-5410

紀ノ川農業協同組合 担当者：西谷



田辺市有機農業推進協議会（和歌山県）

果樹を中心とした有機農業

①取り組みの体制

JA紀南と連携し、有機農業の推進に取り組んでいる生産者団体が中心となり、和歌山県・田辺市・JAと協議会を設立。消費地の消費者団体等との交流を行い市の有機農産物の認知度をあげると共に、技術研修会を行い地域においても有機農業を推進していく。

②取り組みの主な内容

・販売力の強化

市場調査、卸売市場、生協、提携団体、食品会社、消費者等との交流を通じて、出荷・販売先の開拓、産地化・ブランド化を進める。

・担い手の育成

講演会を開催し、地域での有機農業の振興を図り、また技術研修会を開催し新規参入者の育成を行う。

・地域の有機物資源を活用した良質な堆肥の生産と施用

③生産概要（H22年12月末）

○ 農業生産物の内訳

果樹 梅10.6ha、かんきつ1.5ha（対前期比+7.85ha）
（うち有機JAS栽培 梅10.6ha、かんきつ1.5ha、対前期比+7.85ha）

○ 協議会の農業者数

現在 12人（対前期比 +2人）

うち有機JAS農業者12人（対前期比 +2人）

○ 協議会の売上

現在 25,463千円（対前期比 +2,503千円）

うち有機JAS分25,463千円（対前期比 +2,503千円）

○ 農産物の主な売り先

現在は、提携団体、生協、食品会社と主に取引を行っているが、今後は、有機農産物取り扱い専門業者、産直等にも販路を拡大する予定。

④写真、絵、グラフ等のプレゼン資料

田辺市有機 農業フォーラム

有機農業の
現状、技術、
経営について

日 時
平成23年1月25日（火）午後1時30分～

場 所
田辺市高雄三丁目22番19号
JA紀南ふれあいセンター2F会議室

内 容

●講 演 「有機農業の体験談」
講師 土佐自然塾塾長 山下 一穂

～山下一穂氏、プロフィール～
高知県橋北の地で「自然塾」と呼ぶ有機農業を
実践、土づくりに取り組んで、有機の学校「土佐自
然塾」で人材育成にあたっています。

●講 演 「県下の有機農業の現状」
講師 NPO法人和歌山有機認証協会事務局長 重栢 陸

～重栢 陸氏、プロフィール～
ニュース和歌山有機農業部長、NPO法人わかやま環境ネット
ワーク代表、NPO法人和歌山有機認証協会事務局長、地
球温暖化防止センター長等を兼任し、地球温暖化防止に力
的に取り組むとともに、新たに、産消連携を目指した「ふ
んど」を立ち上げ、「農と食」関係に注力しています。

主催 田辺市有機農業推進協議会、事務局 田辺市農業振興課振興室 06-9959



有機栽培育苗用圃場を
設置

第一回有機農業フォーラムの開催

⑤協議会代表の一言

協議会では果樹を中心とした有機農業を実施しています。今後は栽培技術向上と販路先を確保しながら、有機農業の新規参入者の育成と生産拡大を行いたい。

⑥連絡先:

〒646-8545 和歌山県田辺市新屋敷町1番地
電話番号0739-26-9959、FAX番号0739-22-9908
田辺市役所梅振興室 担当者:愛須

総社市有機農業推進協議会（岡山県）

誰でも取り組める有機農業をめざす

①取り組みの体制

有機JAS農家を中心に、行政・JA・農業普及指導センターと連携・協力し「誰もが容易に有機農業に取り組むことができる」ことを目指し取り組んでいる。

②取り組みの主な内容

- ・太陽熱を利用した除草など新たな技術の導入
太陽熱を利用した透明マルチでの除草を導入することで作付面積の拡大を図る。
- ・特色ある販売体制の構築
品目を絞り大量生産を図る少品目多量生産に転換し、大都市圏への販売を積極的に図る。
- ・学校給食への有機野菜等の供給
現在有機米、有機ニンジンを供給している。さらに品目と生産量を増やしたい。H23年度から学校給食食材の地産地消が開始された。
- ・食育の実施
ジャガイモ、スイートコーンの有機栽培体験を実施し、消費者との交流で食育に取り組んでいる。

③ 農業生産の概要

○ 生産物の内訳

- 米 6ha(うち有機JAS 6ha)
- 野菜 6.6ha(うち有機JAS 6.6haでニンジンが98%を占める)
- 果樹(桃) 0.1ha(うち有機JAS 0.1ha)
- その他 2ha(うち有機JAS 2ha)

○ 協議会の有機JAS農業者数

現在 9人 目標(25年度) 12人

○ 協議会の売上

現在 44.5百円 目標(25年度) 54百円

○ 農産物の主な売り先

有機農産物取り扱い専門業者、岡山市中央市場、総社市学校給食、加工業者、地元直売所、ほか



主力の生産物「有機ニンジン」収穫出荷の様子 年間出荷量140t 程度



もう一つの主力「有機米」学校給食と加工用が中心 年間出荷量26t 程度

生産物は ほぼ全量
有機JAS認定

⑤協議会代表の一言

有機農業推進法の理念をもとに、農業者の誰もが有機農業に取り組むことができ、消費者のだれもが有機農産物を容易に手に入れることができることを目指しています。

この総社地域から「人にも自然にもやさしい有機農業」がますます広がるように活動します。

連絡先: 〒719-1192 岡山県総社市中央1丁目1番1号

TEL(0866)92-8271 FAX92-8386

E-mail nourin@city.soja.okayama.jp

担当 事務局 総社市役所産業部農林課

徳島有機農業推進協議会（徳島県）

1000人の有機農業者を目標に

①取り組みの体制

小松島市と徳島県・小松島市市長を会長とする有機農業者と環境保全型農業を行う農業者とJA東とくしま等で構成される小松島市生物多様性農業推進協議会・技術指導と事務局機能を担うNPO法人とくしま有機農業サポートセンター・販売促進を担うコープ自然派事業連合等で協議会を設立

②取り組みの主な内容

- ・有機農産物の産地づくり
地域を満たし、大都市に積極的に供給する「地足都給」を目指している
- ・有機農業技術者の育成・有機農業の担い手づくり
(有機農業の普及の拠点として有機農業サポートセンターを設置)
- ・土壌分析と施肥設計による科学的な有機農業を目指すとともに、田んぼの生きもの調査による有機農業が地域の生態系を守っていることを実証を行い、硝酸態窒素濃度の低い野菜づくりを目指す。
- ・地域内の有機物資源の有機農業への積極的活用の研究
- ・堆肥の改良と有機物資源の利用方法の普及啓発
- ・販売促進のために販売会社「阿波有機」を設立
- ・有機農業の普及啓発のための消費者と農業者の交流事業として、田んぼの学校・家庭菜園講座・たべる交流会オーガニックランチを開催

③生産概要（有機栽培圃場面積 8.75ha）

- 農業生産物の内訳
米・野菜あわせて
現在（平成21年度）16戸（8.75ha）→目標（平成27年）32戸（13ha）
- 協議会の農業者数
現在 50人→目標（平成27年）100人
- 協議会の売上
昨年21年度の産出額 68,759 t 23,351,807円
- 農産物の主な取引先
生活協同組合連合会コープ自然派事業連合
株式会社キョーエイ・光食品・徳島バナナ・阿波有機等

④ツルをよぶお米 PROJECT



●お米のブランド化によって農業を中心とした地域の活性化を推進していきます。

●日本一の産地となった菌床シイタケの廃菌床の堆肥と日本一となった地鶏の鶏糞堆肥を使った地域循環のしくみづくり。

●技術者育成のための学習会を定期的に開催し技術力の向上を図る。

●田んぼの生きもの調査によって有機農業が地域の自然生態系を守っていることを消費者にアピール。

●有機稲作の推進によってナベツルが飛来するようになりました。

⑤協議会代表の一言

徳島に1000人の有機農業者を育てることを目標とし、有機農業を推進することで、地域経済の発展と自然循環機能の増進に貢献していきたい。

地域の未利用資源を活用して、高性能堆肥を開発し、これを利用して、有機農産物の本格生産・本格販売をすすめています。1000人の有機農業者を育成するための「有機農業サポートセンター」を建設し、有機農業を本格的に学びたいという方を、全国から募集し、人づくりもはじまりました。いよいよ地域の有機物資源を活用した本格的な有機農産物の産地づくりがはじまりました。（岸健二）

⑥連絡先

<http://www.komatushimayuuki.jp>

〒773-0018

徳島県小松島市櫛田町字間町11-4 小松島有機農業サポートセンター内

TEL・FAX : 0885-37-2038 担当：植木博道

木頭柚子有機農業推進協議会（徳島県）

柚子を核とした有機農業の推進

①取り組みの体制

NPO里業ランド木頭、地域住民セクター(株)きとうむら、那賀町との連携・協力のもと柚子栽培を核とした有機農業を推進

②取り組みの主な内容

- ・有機農業の参入希望者に対する指導・助言
22年度事業においては、新規参入者が3名増え91名。
- ・実証ほ場の設置
実証ほ場における農産物が生協にて通常価格の約2倍で販売。
- ・研修会および勉強会の開催
年間6回の勉強会にのべ400人以上の生産者の参加。
- ・有機農業により生産される農産物の流通・販売の促進活動
生協グループ、自然食流通、自然食宅配グループとの交流により、販路が拡大。
- ・消費者等に対する普及啓発、有機農業者と消費者の交流活動
大阪の地域イベントで当会の活動を報告。

③生産概要（H22年12月末）

- 農業生産物の内訳
柚子60ha
うち有機栽培に順ずる農地25ha(対前期比 +3ha)
うち有機JAS栽培は0
生産量:100t(対前期比 +1t)
- 協議会の農業者数
91人(対前期比 +3人)
うち有機JAS農家は0
- 協議会参加農家の売上
1600万円（対前期比 +115万円）
うち有機JAS分は0

④写真、絵、グラフ等プレゼン資料

●有機栽培勉強会



●消費者との交流会



●オーガニックエキスポ出展



●実証ほ場での勉強会



⑤協議会代表の一言

徳島県の県南に位置する那賀郡那賀町の山間部である木頭地域は、全国的に木頭柚子として知られた地域ですが、山の斜面に位置する農地が多く、過疎化と高齢化によって放置畑が増加しています。また、これまでの柚子販路においては、厳しい選果基準によって農薬や化学肥料なくして栽培方針が立てられないという課題もあり、農家の健康と地域の環境において大きな負荷がかかっていました。そんな中で、近年農薬の問題に消費者の意識が高まり、特に果皮を利用する柚子においては安全性を求める声が多く、有機栽培の必要性を痛感しています。さらに、単に柚子という農産物を出荷するだけではなく、地域企業との連携の中で付加価値の高い加工製品を製造販売することで、農産物の安定需要と雇用の創出につなげ、地域活性化に結び付けて行きたいと考えています。

連絡先：木頭柚子有機農業推進協議会

771-6402 徳島県那賀郡那賀町木頭出原字ヨコマチ23-2

0884-68-2285 担当：日野 E-mail: npo@kitomura.jp

今治市有機農業推進協議会（愛媛県）

有機農業を柱にした食と農のまちづくりをめざして

①取り組みの体制

地域の農林水産業の活性化に結びつけるため、今治市と連携し、地産地消・食育・有機農業を一体的に推進

②取り組みの主な内容

○営農の柱を有機農業へシフトするために

指導的立場にある者の有機農業の知識や技術の取得を推進

○有機農業への参入を容易にするために

「有機農業講座」で技術普及を行うとともに、JAに有機農業部会を設立し、新たな生産者を掘り起こすことでスーパーや直売所に「有機コーナー」開設を目指す。

○子どもたちに安全な農産物を安定的に供給するために

校区内での有機農産物の生産拡大、流通システムの構築を行い、学校給食での有機農産物の活用を立花地区以外に広げることを目指す。

③生産概要

○農業生産物の内訳

米 1,490ha（うち有機栽培 5.4ha 対前期比+0.5ha）

野菜 483ha（うち有機栽培 5.8ha 対前期比+0.7ha）
（だいこん、じゃがいも、たまねぎなど）

果樹 2,655ha（うち有機栽培18.0ha 対前期比+0.3ha）
（かんきつ類ほか）

○協議会の農業者数

現在35名 対前期比+2名

（うち有機JAS取得者12戸 対前期比+1戸）

○主な販売額

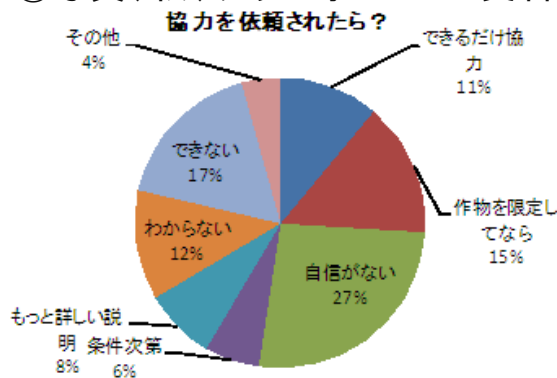
学校給食 336万円（対前期比-89万円）

生協 4,103万円（対前期比+1,059万円）

○農産物の主な取引先

愛媛有機農産生活協同組合、学校給食、スーパー
レストラン、宅配 ほか

④写真、絵、グラフ等プレゼン資料



直売所会員の中には、給食用に有機で野菜を生産してもよいと思っている人が3割程度いることがわかった。

有効と思われる施策	件数
指導の徹底	147
価格補償	127
技術の確立	103
普及啓発	85

有機野菜を生産するための条件や有効と思われる施策なども見えてきたため、それらを踏まえ、グループづくりを行い、給食への供給拡大を目指す。

⑤協議会代表の一言

今治市では、「食料の安全性と安定供給体制を確立する都市宣言」や「今治市食と農のまちづくり条例」の制定により、有機農業の振興などに取り組んでいます。

また、立花地区では、昭和58年から有機農産物の学校給食への供給を行っており、子どもたちをはじめ市民の有機農業への理解や関心も進んでいます。

これらは市民の取り組みとして発展してきており、協議会では積極的に協力していくとともに、市内全域に広げていくために様々な取り組みを行っています。

ぜひ有機農産物を購入することで、今治市の有機農業を応援してください。

⑥連絡先：〒794-8511 愛媛県今治市別宮町1-4-1

（事務局）今治市農林振興課内 e-mail: nourin@imabari-city.jp

TEL:0898-36-1542 FAX:0898-32-5266

西予市有機農業推進協議会（愛媛県）

地域特性を活かして様々な有機農産物を栽培

①取り組みの体制

西予市・関係団体と連携・協力して有機農業を推進していくとともに、消費者の理解と関心を深め、相互理解の増進を図る。

②取り組みの主な内容

- ・有機栽培実証試験の実施
有機栽培での安定的な生産方法を確立するため、様々な実証試験を行う。
- ・耕畜連携による地域内での資源循環
西予市は中四国数々の畜産地帯であり、地元の豊富な良質堆肥を活用した有機農業を展開する。
- ・有機農産物の販売促進活動、消費者との交流活動
有機栽培農家の所得向上と経営安定のために販路拡大を図る。
また、消費者の有機農業に対する理解と関心を深める交流を行う。
- ・食育と地産地消、学校給食への有機農産物供給
食育と地産地消に力を入れるとともに、学校給食へ供給を図る。

③生産概要

- 農業生産物の内訳
 - 米 1,570ha（うち有機栽培 12.5ha）
 - 野菜 525ha（うち有機栽培 6.9ha）
（ケール）
 - 果樹 1,590ha（うち有機栽培 66.0ha）
（温州みかん、いよかん、ポンカン、ユズ等）
- 協議会の農業者数
現在 127人 目標（平成27年度） 140人
- 協議会構成団体・農家の売上
現在 174,830千円 目標（平成27年度） 220,000千円
- 農産物の主な取引先
各生協（東京・高知・愛媛）、農協、学校、青汁工場、
個人商店、会員直接販売 ほか

④写真、絵、グラフ等プレゼン資料

「愛媛といえば、みかん!!」
無茶々園では有機栽培で育てたみかん
をひとつひとつ大切に収穫します。



水稻布マルチ直播栽培では、慣行栽培
の田植えと違い、種もみを封入した布マ
チを田んぼに広げてから灌水します。

⑤協議会代表の一言

西予市は愛媛県南西部に位置し、海拔0mから四国カルストに至る1,400mまで、起伏に富んだ自然豊かな地域です。このような地域特性を生かし、柑橘、水稻、野菜といった様々な有機農産物を栽培しています。

今後も関係団体と連携・協力して環境にやさしい有機農業を推進するとともに、消費者ニーズにあった有機農産物を皆さまの元へお届けできるように努めていきます。

代表：三好幹二

⑥連絡先：〒797-8501 愛媛県西予市宇和町卯之町三丁目434番地1

TEL 0894-62-6409 FAX 0894-62-6340

E-mail: nougyou@city.seiyo.ehime.jp

担当部署：西予市役所 農業水産課

高知439国道有機協議会（高知県）

県内外の有志と協働した取組み

①取り組みの体制

本山町と連携・協力のもと有機農業を推進するとともに消費者の理解と関心を深め、新しい需要を開拓することにより、販売企画力の強化につなげる。

②取り組みの主な内容

- ・実証ほ場及び勉強会
有機農業生産技術を修得し所得、農業者を増やす。
- ・有機野菜フェアの開催
試食・即売会を実施し、啓発活動を通じ販売力を高める
- ・学校給食への提供
実証ほ場の生産物を学校給食等へ提供し、有機野菜のPRを行う。

③生産概要（H22年12月末）

○農業生産物の内訳

畑 21ha うち有機栽培 2.2ha（対前期比0ha）
うち有機JAS栽培 0.1ha（対前期比+0.1ha）

○協議会の有機農業者

6人（対前期比0人） うち有機農業JAS農業者1人
（対前期比+1人）

○協議会の売上

17,915千円（対前期比 +2,439千円）
うち有機JAS分 500千円（対前期比+500千円）

④写真、絵、グラフ等プレゼン資料



実証ほ場



勉強会



保育給食へ有機野菜の提供



試食会

⑤協議会代表の一言

5町村の首長が理解を示し、県内外の有志と協働しているのが私たちの特徴です。有機野菜フェアの試食会には「最もおいしいイタリアン」と賞賛される山形のレストランのシェフを招聘して、当協議会のアドバイザーの無農薬有機野菜と勝負させています。昨年からはほ場を本山町にまとめました。

⑥連絡先：高知市はりまや町3-2-41

TEL 088-823-8441

高知ものべ川有機農業推進協議会（高知県）

中山間地域の小規模農家の有機農業を推進

取り組みの体制

香美市との連携・協力のもとで、中山間地域における小規模農家の有機農業を推進

取り組みの主な内容

・有機農業技術勉強会の開催

科学データを基にした有機栽培技術の習得

・栽培技術の実証

勉強会で得た知識を4ヶ所の実証ほで実践

・販路の開拓

有機農産物マッチングフェアへの出展

・消費者の有機農業への関心の啓発

イベントでの試食会やチラシの配布、学校給食への食材提供

○ 農業生産の概要

野菜1.92ha(うち有機栽培1.92ha)
(カボチャ、ブロッコリー、キャベツ)

○ 協議会の農業者数

現在 6人 目標(H27) 20人
※協議会の会員数としては48名

○ 協議会の売上

現在 2,900千円 目標(H27) 35,000千円

○ 農産物の主な売り先

地元スーパー、直売所など

勉強会



有機農産物マッチングフェア



土壌分析&施肥設計



実証ほ



⑤協議会代表の一言

中山間地域の小規模農家が多い当地域では、資材価格の高騰や農産物価格の低迷により、農家の生産意欲が減退し、担い手不足の減少から、耕作放棄地が著しく増加しています。

このため、有機農業による中山間地域の農業の活性化を目指し、個人の経験や勘に頼らない科学的データを用いた有機栽培技術を習得し、消費者に対して高品質な農産物を安定的に供給できる産地づくりを行っていきます。

連絡先: 〒781-4202 高知県香美市香北町蕨野159
TEL・FAX:0887-58-2224 (担当:山中 道博)
e-mail:kahoku159@ybb.ne.jp